

府中崖線における生物多様性保全業務委託

令和6年度版

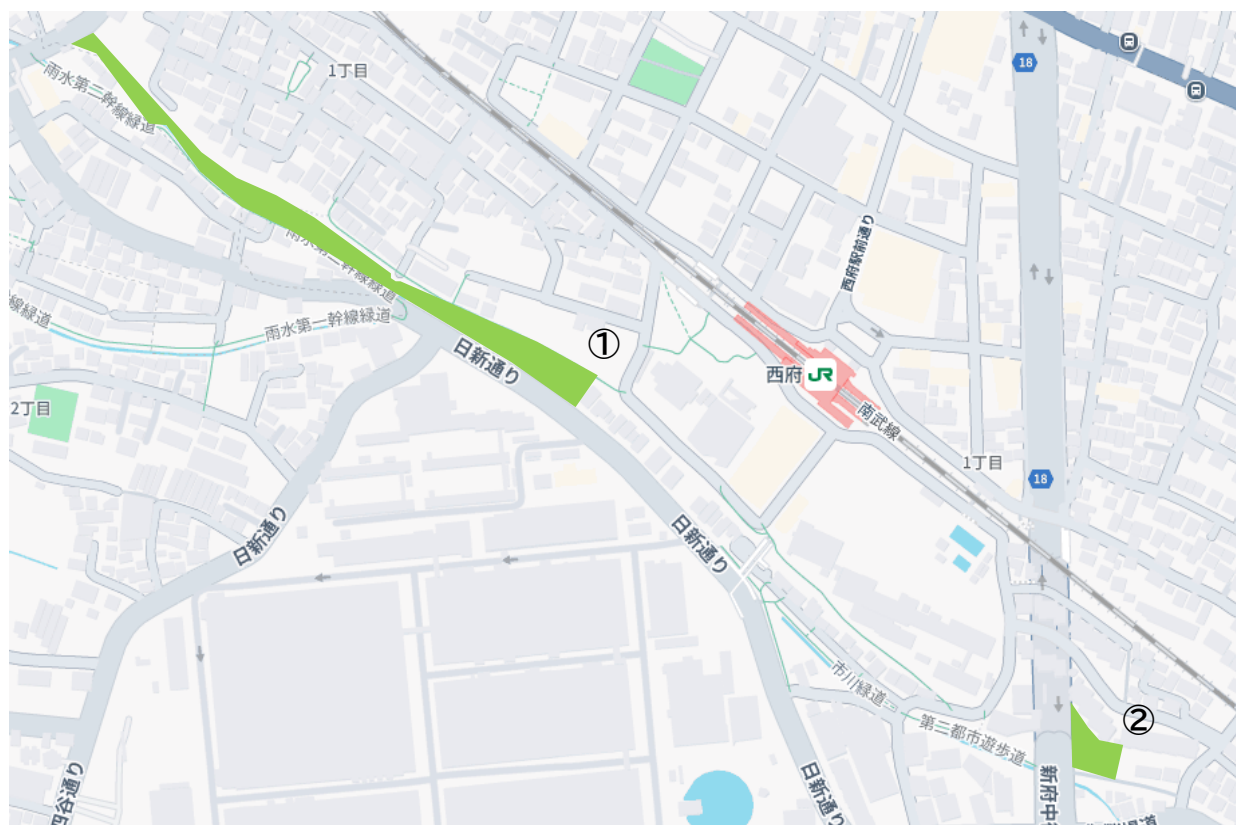
西府崖線



第一造園株式会社

目 次

1	案内図	P.1
2	選択除草の目的	P.2
3	選択除草	P.3～4
4	高中木の管理	P.5～6
5	土砂の流失防止対策	P.7～8
6	巡回点検	P.9
7	崖線でみられる在来植物	P.10～12
8	除去すべき外来種・帰化植物	P.13～14
9	バイオネストの設置	P.15
10	市民協働の取組	P.16～17
11	府中崖線の紹介	P.18～19



崖線地区

- ① 西府崖線
- ② 本宿町崖線

選択除草は繁殖力の強い外来植物を抜いて、在来植物の緑地を造ることを目的とします。

従来の草刈管理では在来種・外来種共に刈りこんで根を温存していました。成長は外来種の方が早く背丈が伸長する為、外来種が繁茂していました。

外来植物は種を大量に飛ばしたり、成長が早いため在来植物と競合して生育場所を奪ってしまします。繁殖力の強い外来種を継続して取り除いていく事で在来植物の緑地が変わっていきます。崖線ではハケ上下の林縁から外来種が侵入していますので、林縁管理に注力しています。

林床にある植物は様々な環境で生育しています。陽当たりを好む草本、木陰を好む草本、湿った環境を好む草本と多種多様な植物の環境に合わせた管理をしなければなりません。

緑地によって特徴がありますので何を取り除き、何を残すかを選択し生物多様性を意識した環境づくりが大切になります。



メジロ

①外来種の抜根除草

抜根除草は除去対象の草を根っこから引き抜きます。刈り取ってしまうと根が残ってしまう為、人力作業で鎌やスコップを使い根を取り残さないよう行います。



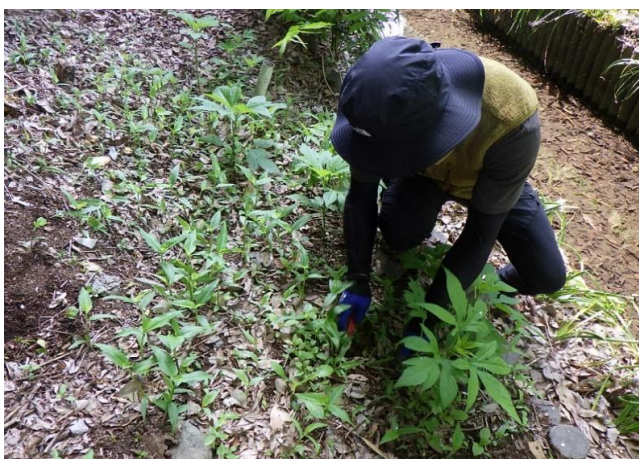
作業状況



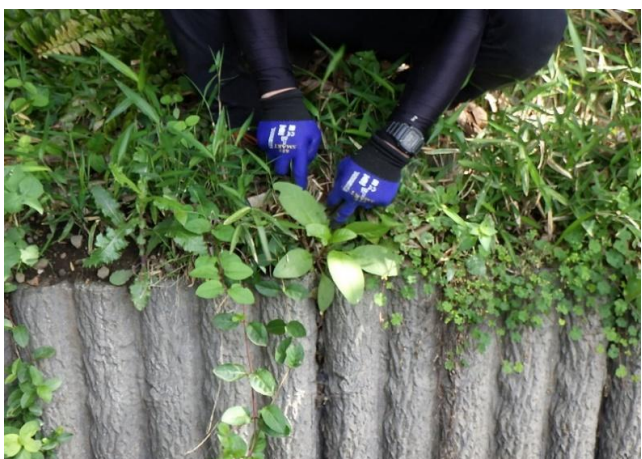
作業状況



ハルジオンの抜根除草



オオブタクサの抜根除草



ヨウシュヤマゴボウの抜根除草



ノハカタカラクサ(トキワツユクサ)の抜根除草

②選択除草の効果

残すべき草本類を定め、取り除くべき草本類を除去することにより景色は変化していきます。



作業前



作業後

林床の明るいところにはヨウシュヤマゴボウやカナムグラ、クズなどの蔓植物が繁茂していた。蔓植物は他の植物に覆いかぶさるため除去。下層にスゲ類が生息していたのでまずはスゲ類の群生地をつくる。



作業前



作業後

カナムグラ、クズなどが高木に絡みつき藪化し繁茂していた。在来植物でも放っておくと藪化してしまうので抑制管理が必要となる。

①高中木の手入れ

崖線の景観を意識して、自然樹形の剪定を実施。【令和3年、4年度】



剪定前



剪定後



剪定前



剪定後



剪定前



剪定後

高中木が茂りすぎると樹木の根元に日照が入らなくなる為、草があまり生えていない。林床が明るくなりすぎない程度の剪定に収める。

植生管理が始まる以前に強剪定されたケヤキ。強剪定で切断された太い枝は枯れていた。



剪定前



剪定後

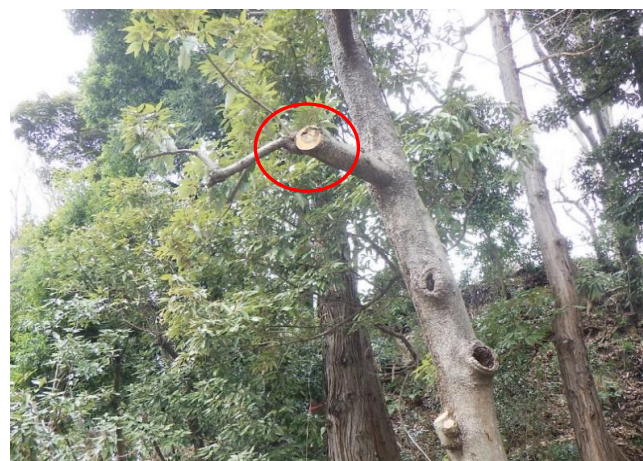


枯れた枝



枯れた枝

強剪定で枯損した枝がついているシロダモ



枯損部を切り戻し

樹木は枝を切ると傷口を治すため外皮を巻き、切り口を塞ぎます。しかし適切な箇所では枝を切らないと残した枝が枯れてしまうことがあり、この枯れた部分があるため傷口が塞げないと樹木の幹(本体)が傷んでしまいます。傷んだ樹木は枯れてしまったり、強風等で倒木してしまう可能性があります。樹木の健全な育成のため切り口には気を付けて剪定をおこなっています。

府中崖線は多摩川によって形成された河岸段丘で、表層の下は川砂利層のため崩れやすくなっています。中腹に入ろうとすると足場が崩れてしまう為、植生管理上困難を伴います。また、豪雨などがあると表層が流れてしまう為、草本類の定着も難しくなっている箇所もあります。この状況を改善するために土砂の流失防止対策として土嚢を並べたり、竹を使用した柵を設けています。

【土嚢袋】

令和5年9月



表層の流失で草がなくなっている



土嚢を用いた緑化工法

用意した土嚢は麻袋で、中の土はバイオネストで堆肥化した土と流失土を混合したものを使用しています。土の中には崖線にあるアズマネザサの根を入れました。ササ類の地下茎網がもつ土壌の緊縛力の高さは他の草本類と比べて大きいからです。

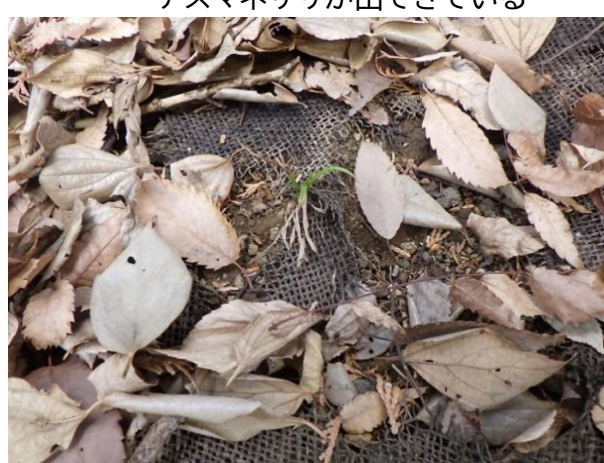
令和6年12月



アズマネザサが出てきている



タブノキの幼木



スゲ類の発芽

【竹の土留め柵】

令和4年1月



令和5年10月



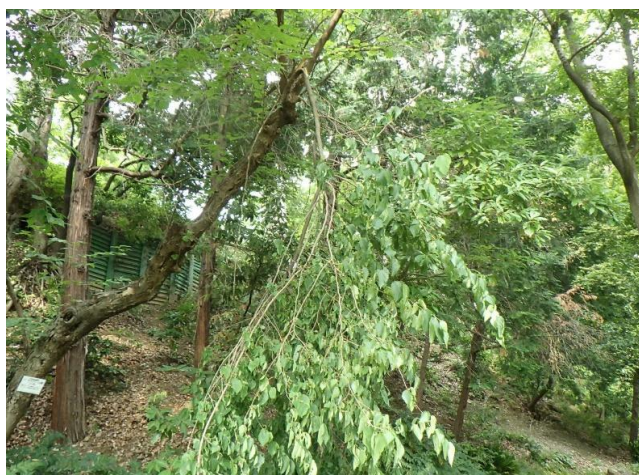
崖線下層の箇所では土砂が定着し、キランソウが繁茂していました。 令和5年10月

【現場発生材を利用した粗朶柵】

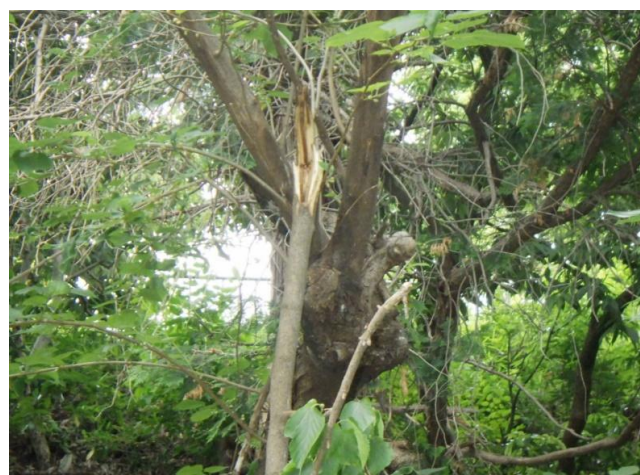


剪定枝を利用した粗朶柵。土砂の流失や落ち葉止め対策として役割を担います。

倒木や枝折れなどの第三者への安全の阻害要因や不法投棄などがないか定期的に巡回点検を実施しています。また既存物の破損などがあれば修繕もおこなっています。



強風による枝折れ



強風による枝折れ



巡回で見つけたフェンスの老朽化。フェンスの修繕をしました。



巡回で見つけた機能していない雨水配管。配管の修繕をしました。

種類が多いので抜粋しています



キランソウ



タチツボスミレ



ヤブマオ



メヤブマオ



オオジシバリ



ホタルブクロ



カマツカ



ヤブムラサキ



マルバウツギ



カントウタンポポ



トボシガラ



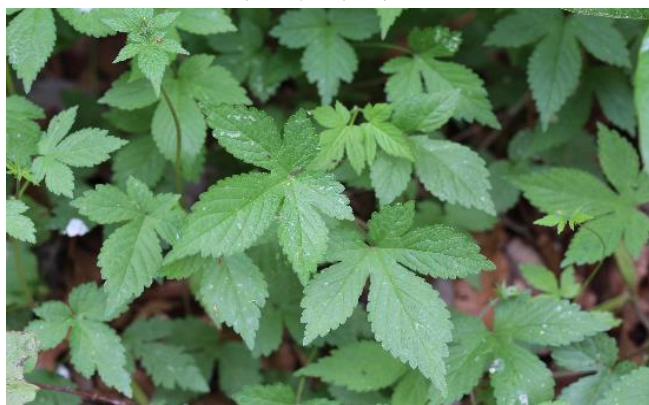
クサイチゴ



コバノタツナミソウ



ムラサキケマン



キツネノカミソリ



ノカンゾウ

【東京都絶滅危惧レッドリストに掲載されている植物】



ゴマギ
ガマズミ科
絶滅危惧Ⅱ類 VU
花期: 4月頃
生息場所
西府崖線

備考
西府崖線に残存する1本
葉は傷つけるとゴマの香りがする。市内で唯一の個体の可能性も。



キツネノカミソリ
ヒガンバナ科
絶滅危惧Ⅱ類 VU
花期: 7月頃
生息場所
西府崖線
本宿町崖線

備考
毎年同じ場所に顔を出すということでもなく年により、出る場所はまちまちのようです。



ノカンゾウ
ツルボラン科
準絶滅危惧NT
花期: 6月頃
生息場所
西府崖線
本宿町崖線

備考
ヤブカンゾウに比べ個体数は少ない。
令和5年版からリスト入り。



ニガカシュウ
ヤマノイモ科
準絶滅危惧NT
花期: 9月頃
生息場所
西府崖線

備考
つる性の植物。
令和6年10月に発見。

8 崖線で特に除去すべき帰化植物

赤文字は生態系被害防止外来種リストに記載されている外来種



アメリカオニアザミ



ハルジオン



ノハカタカラクサ(トキワツユクサ)



ヒメヒオウギズイセン



コセンダングサ



ヨウシュヤマゴボウ



コカラスムギ



シュロ

【帰化植物の除去状況について】

崖線の外来種は林縁から侵入し勢力を拡大しているようです。上層・下層に集中し、中腹にはあまり外来種は見られません。これは陽当たりが良いところで繁殖していると考えられます。植生管理業務が開始された令和3年度はヨウシュヤマゴボウやノハカタカラクサなどが繁茂していた。



写真はアレチノギクやヨウシュヤマゴボウ

継続的な抜根除草によりヨウシュヤマゴボウ・ヒメムカシヨモギなどの大きな姿は見かけなくなりました。(発見した段階で除去している為、成長した姿はない)



ノハカタカラクサの抜根除草



ヨウシュヤマゴボウの抜根除草



まだまだ土の中には長年のこぼれ種や外部からの侵入などがあるため、継続的に除草をする必要があります。

崖線では環境に配慮した取組として、持続可能なリサイクルができるバイオネストを設置しています



現在のバイオネスト

下層では堆肥化されて昆虫の住処になっています。5月頃にはカブトムシの大きな幼虫がみられる。堆肥化された土は崖線の土砂流失防止の土嚢に再利用しています。

バイオネスト(bio-nest)は剪定作業や下草刈りで発生した枝葉や草を利用してつくる、自然の風景と違和感のない堆肥置き場です。

バイオネストの利点

- ① 樹木の枝葉・落ち葉・下刈りの残滓・抜いた草などをその場で処分できる
- ② カブトムシやコガネムシなどの幼虫の格好の棲家となり樹林の生態系の多様性を高める
- ③ 継年的な樹林地管理で発生する間引き樹木や剪定枝葉などを持続的に受け入れられる
- ④ きれいに組み上げたバイオネストは自然地のモニュメントとしての価値をもつ
- ⑤ 老若男女の参加による協働作業を通じ管理の楽しさや重要性が理解される
- ⑥ 不要になった場合もそのまま放置すれば自然に土に還る



バイオネストの解説板

崖線では地元NPO府中かんきょう市民の会と連携し管理方針の共有をしています。
協働は小学校の体験学習の支援・落ち葉掃き・植生解説・剪定講習会などの活動を実施しています。

- | | |
|---------|-----|
| ・体験学習支援 | 5月 |
| ・落ち葉掃き | 12月 |
| ・野鳥観察 | 1月 |
| ・剪定講習会 | 3月 |
| ・植生観察 | 適宜 |



落ち葉清掃 11月



野鳥観察会 1月



第3回 剪定講習会 3月



講習会の様子

バイオネストを協働で作りました



バイオネストの作成(2022年9月)



完成



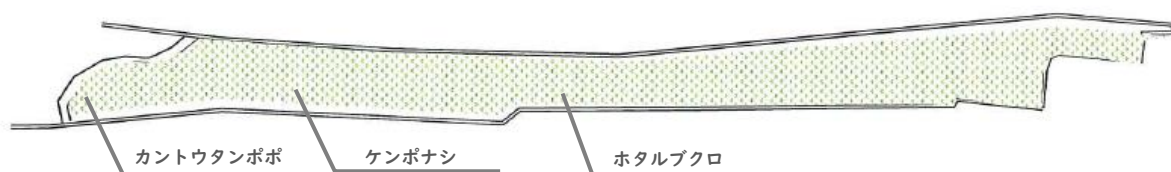
バイオネストで作った堆肥(2024年4月)



花壇へ再利用



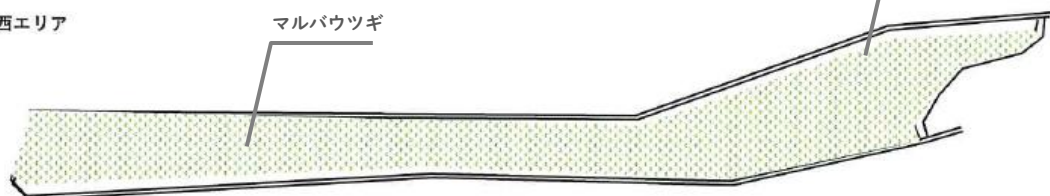
東エリア



ゴマギ

西エリア

マルバウツギ

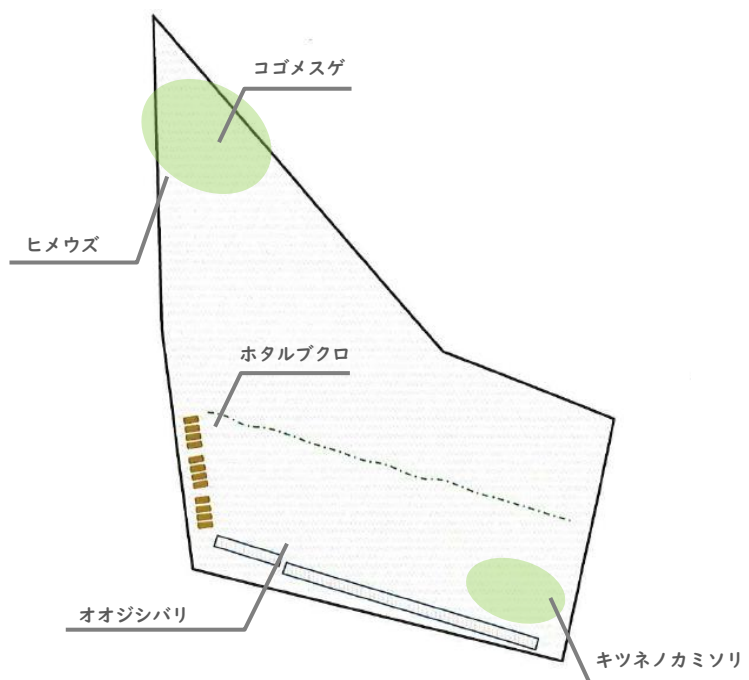


崖線の特徴

府中崖線の中でも西府崖線は面積が大きく連続性が維持されている崖線樹林です。
 高木層にはケヤキ、エノキ、ムクノキがあり、部分的にコナラやクヌギが自生。
 崖線林を特徴づけるゴマギ、イヌガヤもみられます。
 ゴマギは市内で唯一の個体ともいわれ貴重な樹種になります。
 またヤブソテツ、ベニシダ、ヤマイトチシダ、クマワラビなどのシダ植物も見られます。

東京都レッドリストに掲載

ゴマギ、ノカンゾウ、キツネノカミソリ、ニガカシュウ



崖線の特徴

本宿崖線は本宿トンネル周辺の小規模な樹林になります。
高木はケヤキ、ムクノキ、エノキ、クヌギ、アカマツなどが自生しています。
上層にはヒメウス、コゴメスゲ、シラスゲなどがみられ、下層にはキツネノカミソリ
ヤワラスゲ、オオジシバリ、ホタルブクロなどが見られます。
過去にはツミ（日本最小の鷹）が営巣したこともあります。